

# VMware vCenter Chargeback Manager 2.0

インフラストラクチャおよび運用におけるコストとアカウントビリティを明確化

## 概要

VMware® vCenter Chargeback Manager™ は、仮想マシンの正確なコスト算出、分析、およびレポート作成を実現します。VMware vCenter Chargeback Manager により、業務部門の責任者および IT 部門は、ビジネスサービスのサポートに必要な実際の仮想インフラストラクチャ コストと運用コストを詳細に確認できます。また、IT コストをビジネス部門、コスト センター、あるいは外部の顧客に関連付けることができます。これにより、リソースにかかるコストやリソース使用率の最適化のための方法をさらに理解することができます。さらに、セルフ サービス環境のコストをポリシー ベースで明確化して、企業の IT リソースを利用した分のみ課金することができます。

## メリット

- 仮想ワークロードの実際のコストを正確に把握することで、リソース使用率を向上できます。
- 事業部門の責任者にとっては、セルフサービスによるリソース要求と vCenter の運用のコスト全体に透明性が与えられ、コストの詳細が明確になります。
- インフラストラクチャのコストを、企業のプロセスやポリシーに合わせた柔軟な方法でモデリングします。

## vCenter Chargeback Manager の使用

vCenter Chargeback Manager により、管理者はシンプルで柔軟性の高い正確なチャージバック（課金）モデルを使用して、IT as a Service（サービスとしての IT）を提供できます。vCenter Chargeback Manager を使用して、管理者は次のことを実現できます。

- **組織のニーズに合わせてカスタマイズしたコスト算出モデルおよびコスト基準の作成**：柔軟なコスト算出モデルによって、IT 部門は固定費、割り当てに基づくコスト、実際の使用量に基づくコスト、またはこれら 3 つを組み合わせてコストを算出し、ビジネス部門またはグループごとにコストをトラッキングできます。
- **仮想化のコストを正確に提示**：vCenter Chargeback Manager は、仮想環境の正確なコスト基準をキャプチャすることで、システムのプロビジョニングにかかる実際のコストを提示します。vCenter Chargeback Manager では、ハードウェア コスト（CPU、メモリ、ストレージなど）から電力や冷却コストに至るまで、さまざまな要素が考慮されます。
- **IT as a Service の提供**：vCenter Chargeback Manager は、クラウド コンピューティングを実現するための課金基盤を提供します。セルフサービス カタログと併用することで、業務担当者に完全な透明性が与えられ、使用したサービスのコスト詳細を明確に確認できます。
- **統合された運用コスト管理**：コスト情報に基づいた意思決定を支援することで、リソースの管理性が向上するとともに、運用管理者が評価、計画、予算編成をより的確に実行できるようになります。

## vCenter Chargeback Manager の仕組み

### 「チャージバック階層」により、課金モデルを容易に管理

管理者が「チャージバック階層」を作成することで、コスト構造およびレポートの配布範囲を決めることができます。コスト テンプレートを使用すると、仮想マシンのコストを「チャージバック階層」に追加するプロセスの簡素化および標準化が可能になります。コストのテンプレートは制限なく作成できるため、組織全体で複数の異なるコスト構造を使用できます。企業全体でチャージバックを利用する場合は、複数の VMware vCenter™ Server インスタンスにわたって階層を設定できます。

## 複数のコスト算出モデルによる柔軟なコスト算出

vCenter Chargeback Manager は、次の 3 つのコスト算出モデルをサポートしています。

1. **固定費**：設置場所、電力または冷却、ソフトウェア、または管理オーバーヘッドなど、各仮想マシン インスタンスに固有のコスト
2. **割り当てに基づくコスト算出**：割り当てられているリソースに基づく仮想マシンごとの変動コスト。リソースには、vCenter Server 内で仮想マシン用に割り当てられているか、予約されているメモリ、CPU、またはストレージ容量などが含まれる。
3. **使用量に基づくコスト算出**：実際に使用したリソースに基づく仮想マシンごとの変動コスト。これには、メモリ、ディスク、および CPU の平均使用量、ネットワーク I/O およびディスク I/O などが含まれる。

コスト算出モデルをコストのテンプレートと組み合わせて使用すれば、簡単なチャージバック モデルから開始して、組織の要件に合わせて調整することが容易になります。

## 柔軟なコスト算出によるコストの正確なキャプチャ

管理者は、CPU、メモリ、ディスク、ディスク I/O、またはネットワーク I/O などの測定要素に関連する基本レートを定義でき、コスト算出モデルごとに異なるレート乗数を適用できます。これにより IT 組織は、よりハイエンドなストレージやサーバ、または SLA (サービス レベル アグリーメント) があるかどうかを考慮してコストを算出できます。これには、ディザスタ リカバリやバックアップ機能が含まれているか、本番用システムが開発用システムか、などの要素が含まれます。不要な測定要素は簡単に無効にできます。

## vCenter Chargeback Manager の主な機能

管理者は、vCenter Chargeback Manager が提供する視認性により、インフラストラクチャ コストを確認できるほか、シンプルで柔軟性の高い正確なチャージバック (課金) モデルを使用して、IT as a Service を提供できます。

### カスタマイズ可能なコスト算出モデルの作成

管理者は、独自のコスト情報と柔軟なコスト算出モデルを使用して、チャージバック モデルをカスタマイズできます。VMware vCenter Chargeback Manager では、次のことを実現できます。

- 割り当てに基づくコスト算出、使用量に基づくコスト算出、またはその両方の組み合わせをサポートしているため、組織独自のコスト算出ポリシーに適用可能
- 再利用可能なコスト テンプレートにより、仮想マシンにコスト算出モデルを追加するプロセスを標準化

- 基本コスト、固定費、1回限りのコスト、複数のレート乗数、および超過分の料金を設定することで、実際のコストのモデリングが可能

## インフラストラクチャ コストの正確なレポート

vCenter Chargeback Manager では、詳細な請求レポートを自動的に作成します。このレポートは、組織内の各部門に提供したり、IT 部門が意思決定とプランニングに使用することが可能です。各部門にレポートを提示することで、消費したリソースや関連コストが組織に明確に提示されるため、仮想マシンが「無償」であるという認識を排除できます。vCenter Chargeback Manager では、次のことが可能となります。

- 指定した期間のコスト算出モデルとリソースの使用量を比較する、コスト レポートを生成します。
- カスタマイズ可能なレポート テンプレートにより、企業や業務部門のブランド基準に合うように、独自のヘッダー、フッター、ロゴ、タイトル、その他のスタイル要素などをレポートに含めることができます。
- 最も使用される仮想マシンと最もコストがかかる仮想マシンのレポートにより、組織はデータセンターのコストの中で最も大きな割合を占める要素を確認でき、効率性を高めるための優先順位付けが容易になります。

## クラウド環境におけるコストの明確化

vCenter Chargeback Manager は、IT as a Service を提供するための重要な要素を管理者に提供します。

- VMware vCloud® Director™ が管理するリソースを測定します。これには、ブロードバンド ネットワーク トラフィック、パブリック IP アドレス、およびその他のサービス (DHCP、NAT、ファイアウォールなど) が含まれます。
- vCloud Director の組織、仮想データセンター、および vApp に基づいて、vCloud Director のチャージバック階層を自動的に作成します。
- vCloud Director のリソース管理モデルのサポートにより、リソースに対する利用分のみでの課金や、予約プールおよび割り当てプールの課金が可能になります。

## 詳細情報

VMware 製品のご購入、または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

<http://www.vmware.com/jp/products>

製品の仕様およびシステム要件の詳細については、VMware vCenter Chargeback Manager のドキュメントを参照してください。

